

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	鳥治食品株式会社豊中本社工場	階数	地上3F
建設地	豊中市服部寿町5丁目113-1 他3等	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年9月 予定	評価の実施日	2018年12月27日
敷地面積	4,905 m ²	作成者	藪下 晃
建築面積	1,817 m ²	確認日	2019年1月7日
延床面積	4,181 m ²	確認者	足立 弘行



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	82%
③上記+②以外の	82%
④上記+	82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.7**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	3.8
温熱環境	2.0
光・視環境	2.9
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

機能性	2.9
耐用性	3.0
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.2**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.7
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源	3.8
非再生材料の	2.8
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.7
地域環境	2.8
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	人の口に入る食品を取り扱う工場であるので、白を基調にした配色計画で「清潔さ」を表現している。	その他 特に無し
Q1 室内環境	熱橋となる開口部をなくし、室内温度環境を省エネルギーで一定に保てるように計画している。結露の発生を大幅に抑制することも可能となるので、カビの増殖を防ぎ室内を清潔に保てる。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺環境に配慮し、道路境界線、敷地境界線沿いには植栽を積極的に設けている。
LR1 エネルギー	高効率な設備機器を採用しエネルギー環境に配慮している。避難安全検証法による設計を行い、外部に面する開口部を最小限としている。	LR3 敷地外環境 光害の抑制に努め周辺環境に配慮している。
Q2 サービス性能	工場部分においては日々のメンテナンスのみでなく、将来必ず発生する生産機器、空調機の更新を考慮し操業停止期間を最低限にするために、ゆとりのある天井高さの確保のみでなく、天井裏の空間も作業員が効率よく作業できる空	
LR2 資源・マテリアル	井水を採用し、市水の使用量の削減を図っている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0141

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	鳥治食品株式会社豊中本社工場
	建設地	豊中市服部寿町5丁目113-1 他3筆
	用途/区分	工場 事務所

【評価結果】	CASBEE 総合評価		B+																
①	CO2削減		4																
②	みどり・ヒート アイランド対策		2																
③	建物の断熱性		5																
④	エネルギー削減		4																
⑤	自然エネルギー直接利用		—																
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	<table border="1"> <tr> <td>太陽光発電</td> <td>—</td> <td>風力</td> <td>—</td> <td>地熱</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>太陽熱利用</td> <td>—</td> <td>水力</td> <td>—</td> <td>バイオマス</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </table>	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—	
太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—												
太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—												

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.7	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.7	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項	LED照明等を採用し、設備システムの高効率化を実施している。	